

令和6・7年度
児童館活動研究報告書

がんばれ

愛知の児童館

あいちのじどうかん

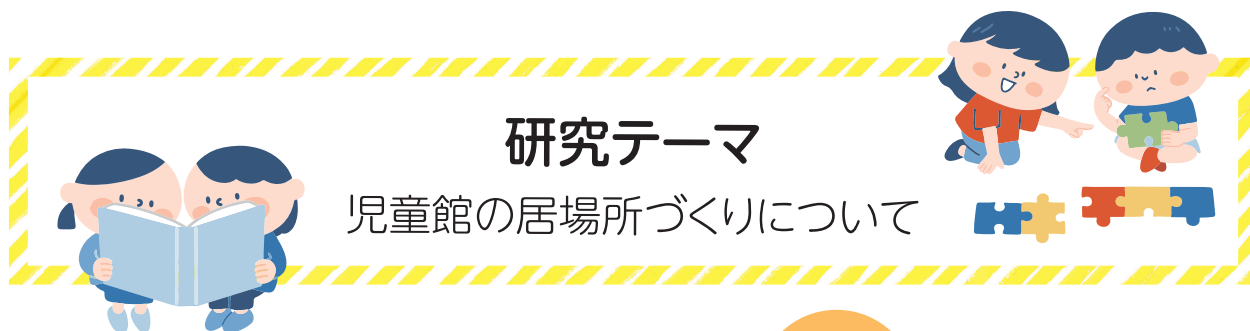


愛知県児童館連絡協議会
活動研究委員会



目次

発刊のことば	1
アンケート調査結果	2
1. 施設情報について	2
2. 事業内容について	5
3. 意識調査について	10
4. 中高生世代利用について	13
おわりに	15



調査の概要

調査の目的

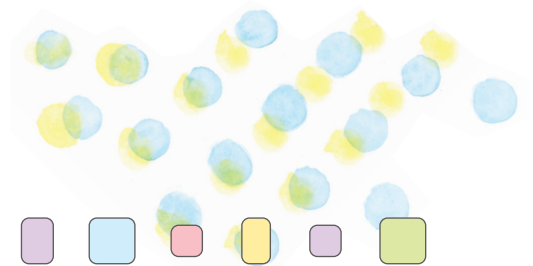
令和5年12月にこども家庭庁より「こどもの居場所づくりに関する指針」が策定されました。その中で全てのこども・若者が安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や外遊びの機会に接することができ、こどもが本来持っている主体性や創造力を十分に発揮して社会で活躍していけるよう、「こどもまんなか」の居場所づくりを実現するという記述があります。

この「こどもの居場所づくりに関する指針」に基づき、県内児童館の取り組みや実態を知り、共有することで居場所としての児童館の在り方を考えることを目的とします。



- アンケート調査実施期間：令和6年3月3日～3月13日
- アンケート調査実施施設：愛知県児童館連絡協議会加入児童館（全268館）
- アンケート回収率：100%（全268館）





発刊のことば



県内児童館の児童厚生員の皆様方におかれましては、各児童館においてこどもの健全育成にご尽力いただくとともに、愛知県児童館連絡協議会の活動にご支援、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昨今、少子化や核家族化など、こどもを取り巻く社会環境に加え、夏季の猛暑や豪雨などの自然環境が大きく変化しており、こどもが外で遊ぶ光景を見ることが減ってきたように感じます。

このような時代にあって、こどもたちが自らの手で遊びを創出するとともに、遊びを通じて友だちといっしょに学び合う場として、児童館が果たす役割は一層重要になっています。

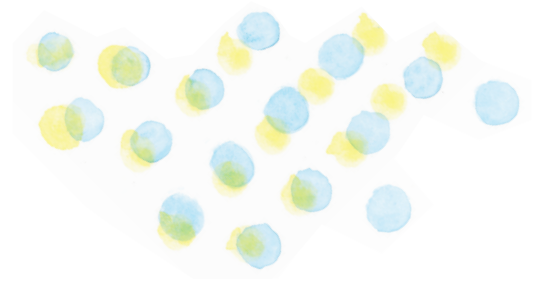
今回、愛知県児童館連絡協議会では、愛知県内の児童館を対象にアンケート調査を実施し、各児童館の状況を取りまとめました。また、各児童館で、日々どのようにこどもたちと関わり、成長を促しているかの取組についてもご紹介しています。

こどもたちが安心して成長できる環境を整えていくことが大人である私たちの使命です。今後も愛知の児童館が、地域のこどもたちにとって夢を持ち、自分らしく成長できる場であるとともに、こどもたちとその家族にとってかけがえのない場所であり続けるために、皆様とともに取り組んでまいりたいと思います。引き続き、皆様方の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後に、この冊子をご覧いただき、児童館が地域社会にどのように貢献しているのかを再認識していただくことで、さらなる理解と支援が広がることを願うとともに、愛知の児童館の発展と、健やかなこどもの成長のために活用していただければ幸いに存じます。

愛知県児童館連絡協議会
会長 新村 誠





アンケート調査結果

1. 施設情報

Q1-1 児童館の閉館曜日

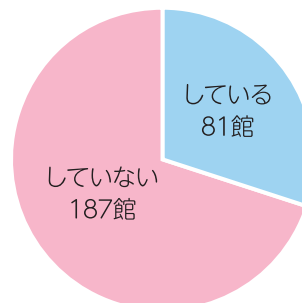
月曜日	63
火曜日	23
水曜日	13
木曜日	2
金曜日	0
土曜日	4
日曜日	184
閉館曜日なし	8



日曜日閉館の児童館が一番多く、次いで多かったのは月曜日閉館となっている。
また、閉館曜日なしの児童館もあり、自治体や地域によってさまざまだった。

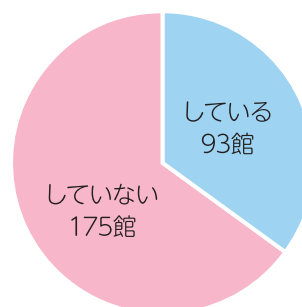
Q1-2 祝日の開館はしていますか？

している	81
していない	187
計	268



Q1-3 こどもの日の開館はしていますか？

している	93
していない	175
計	268



Q1-4 乳幼児親子・小学生来館者数(令和5年4月～令和6年3月までの総計)

乳幼児親子		小学生	
5,000人以上	49	5,000人以上	85
4,001～5,000人	15	4,001～5,000人	24
3,001～4,000人	25	3,001～4,000人	31
2,001～3,000人	46	2,001～3,000人	46
1,001～2,000人	64	1,001～2,000人	47
0～1,000人	69	0～1,000人	35
計	268	計	268

Q1-5 中学生・高校生来館者数(令和5年4月～令和6年3月までの総計)

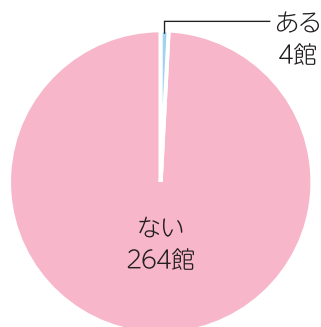
中学生		高校生	
500人以上	71	500人以上	8
401～500人	11	401～500人	5
301～400人	18	301～400人	8
201～300人	23	201～300人	5
101～200人	39	101～200人	17
0～100人	106	0～100人	225
計	268	計	268

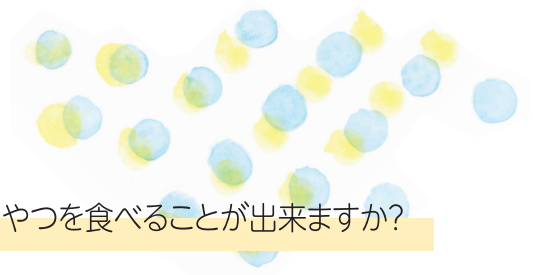
児童館は乳幼児親子および小学生にとって重要な居場所として機能している一方で、中高生世代の利用は限定的であり、中高生世代への利用促進も課題であることが明らかである。今後は年齢層ごとの発達段階やニーズを踏まえた事業内容の充実を図るとともに、乳幼児親子、小学生、中高生世代における「居場所」としての役割を再整理し、利用促進に向けた取り組みを考えていく必要がある。

Q1-6 自由来館児童に児童館から食事やおやつを提供はありますか？

ある	4
ない	264

- ・ こども食堂、フッキングの開催をした。
- ・ お買い物体験で駄菓子屋さんを開催した。
- ・ 未就園児に市販のおやつを配った。
- ・ クリスマスイベントで短期間お菓子の配付をした。



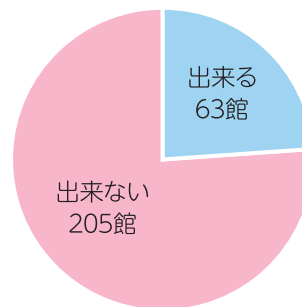


Q1-7 自由来館児童が児童館内で持ち込んだ食事やおやつを食べることが出来ますか？

出来る	63館
出来ない	205館

〔主な意見〕

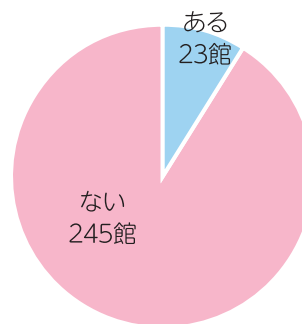
- ・時間と場所を決めて食べることが出来る。
- ・ゴミを持ち帰る約束で行っている。
- ・友だちとの交換はしないルールを設けている。



「居場所としての機能を確保する必要性」と「安全・管理面の課題」の両立を図るため、各館が工夫しながら運用している状況が確認された。運営方針は館ごとに異なるものの、時間・場所・対象を明確にし、ルールを共有することで飲食を可能としている点は共通している。

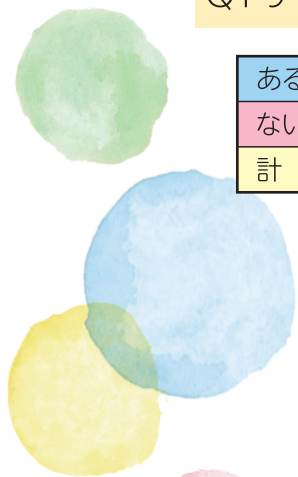
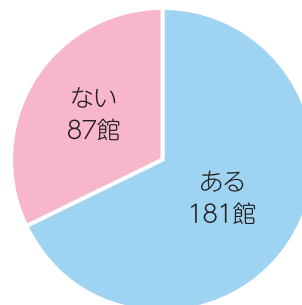
Q1-8 児童館に児童が利用できるWi-Fiはありますか？

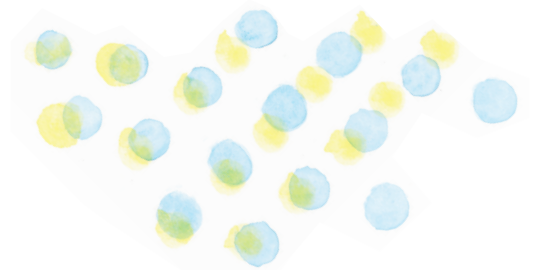
ある	23
ない	245
計	268



Q1-9 児童館は学校の近くにありますか？

ある	181
ない	87
計	268





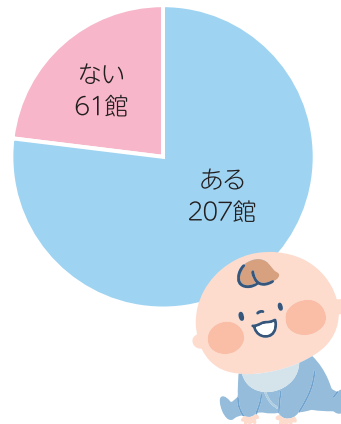
2. 事業内容

Q2-1 乳幼児親子の居場所となれるように施設独自で取り組んでいることはありますか？

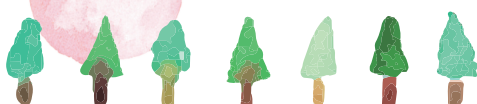
ある	207
ない	61

〔主な意見〕

- ・年6回、妊婦から乳幼児親子対象で非登録制のイベント(工作・クッキング)、親のサークル活動としてこどもは同室で職員がみる。
- ・乳幼児親子のみならず幅広い年齢層の地域住民が楽しみながら交流を図り、地域に開かれた施設であることを周知する目的として地域交流事業を実施する。
- ・乳幼児親子向けの工作、運動遊び、食育等の講座、保護者支援向けの情報交換の場(カフェ)を定期的に行っている。
- ・「幼児教室」ゲームやリズム体操などの活動を通して幼児の健やかな成長を支援。「親子ひろば」幼児向けのおもちゃなどで自由に遊ぶとともに保護者相互の交流の促進を支援する。
- ・「ちびっこプラネタリウム」「声が出て大丈夫プラネタリウム」など、乳幼児親子向けのプラネタリウムの投映を行っている。
- ・保護者がちょっとした悩みを参加者や職員に話せるような環境づくりに努めている。また、大人数が苦手な親子が来館しやすいようにプログラムを入れない日を設け、じっくり関わり合いができるように配慮している。
- ・テーマ別に「食育」「運動リズム遊び」「アート」「ふれあい遊び」の行事を月4回実施をする。
- ・職員が乳幼児親子を対象にした手遊び、体操、読み聞かせなどを毎日実施している。また年2回講師を招いてリトミックなどを実施している。

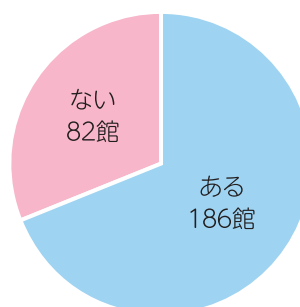


各施設の取り組みから、「参加しやすさ」「発達支援」「交流・相談」の視点を組み合わせた取り組みとして展開されている事が明らかとなった。乳幼児親子が安心して継続的に利用できる居場所の確保に加え、子育て不安の軽減や地域とのつながりづくりに重要な役割を果たしている。今後も各施設の特色を活かしながら、乳幼児親子の多様なニーズに応じた居場所づくりを推進していくことが求められている。



Q2-2 小学生の居場所となるように施設独自で取り組んでいることはありますか？

ある	186
ない	82



〔主な意見〕

- ・小学生を対象に児童館行事を毎月開催。工作や簡単なお菓子作りなどを実施する。
- ・1人で来ても過ごせるおもちゃ（継続できるパズル等）、ドミノ、カプラ等、図書（漫画）等を揃えている。
- ・アイデアボックスを設置して、希望や意見に寄り添い、実現に繋げている。
- ・イベントを減らし、こどもたちのやりたいことをする時間を増やしている。
- ・自由参加による工作やゲーム、季節の遊びなどを随時企画している。
- ・おもちゃ・ボードゲーム・ボール・卓球台等の遊具の充実や月ごとの工作やゲーム、自由に選べる工作を用意し、マンガ本や図書も置いて、小学生が興味を引きそうなものと考えて取り入れ、楽しんでもらえるような工夫をしている。
- ・ポストを設け、やりたいことやほしい物など自由に記入することができる。イベント、クラブを設け、行事や活動など企画したり話し合う、こども会議の場を設けている。
- ・家族参加型イベントの企画、児童館こどもまつりのスタッフ活動、こども企画（こども主体の企画）、こども会議など、こどもの意見や話を聞く場を設定している。
- ・外遊びの充実・学習場所やおもちゃで遊べる場所を作っている。
- ・工作や玩具、運動遊び（卓球など）の中から好きなものを選んで遊ぶことができる。勉強ができるスペースがある。安全で安心して過ごせるように取り組んでいる。
- ・幼児と小中学生で部屋を住み分けして、小学生以上が遊ぶおもちゃの設置や机や椅子の配置をし、くつろげるようなスペースを作っている。
- ・小学生向けの講座、「ドッジボール大会」「プログラミング教室」「バドミントン教室」を実施。館外事業「バスで行く！親子サイエンス教室」「バスで行く！タイル教室」「バスで行く！親子川遊び」「バスで行く！親子星座教室」を実施する。
- ・自分たちでやりたいことを企画立案運営できる「キッズプロジェクト」の実施来館ポイント「はぐポ」を貯めると好きな工作等と交換できる「ハグカリ」の実施をする。

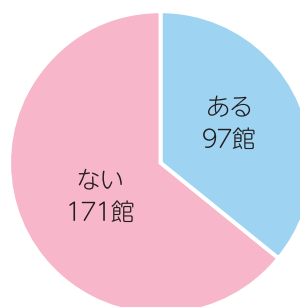


Q2-3 中高生世代の居場所となるように施設独自で取り組んでいることはありますか？

ある	97
ない	171

〔主な意見〕

- ・ 中高生タイムを設け、その時間帯は優先的に中高生世代が遊べる様にしている。
- ・ 17時30分～19時まで中高生世代のみが利用できる時間を設けている。
- ・ Wi-Fi の設置、クラブ活動を行っている。
- ・ 中高生世代に向けた押しグッズ（押し缶バッジ製作など）づくりイベントや異世代交流行事、自習室の開放をしている。
- ・ 閉館前の30分、中高生世代専用の時間を設けている。特別感があり、卓球やカードゲームなどをして閉館までの時間を満喫している。
- ・ 中高生ボランティアを募集し、活動できるときにこどもたちと関わったり、行事の手伝いをしてもらっている。学習室を毎日開放したり、プレイルームの貸館をしてダンスなどの部活動や文化祭の練習をしたり、合唱の練習をしている。また、中高生タイムを設定し、バスケットボールやバドミントン、バレーボールなど自由に体を動かして遊べるようにしている。音楽スタジオを併設しており、貸館で楽器練習やバンド活動ができるようにしている。

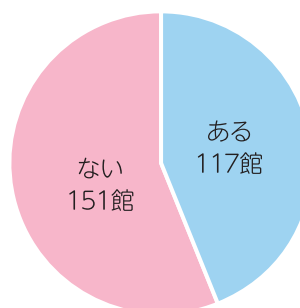


閉館時間の延長や自習室や図書室の開放により、中高生世代が自主的に集まる場所があり、勉強や課題に集中したい子が家庭や学校以外での学習の場となっている。勉強だけではなく、運動で体を動かしたりボードゲームを楽しんだりリフレッシュできる場にもなっている。

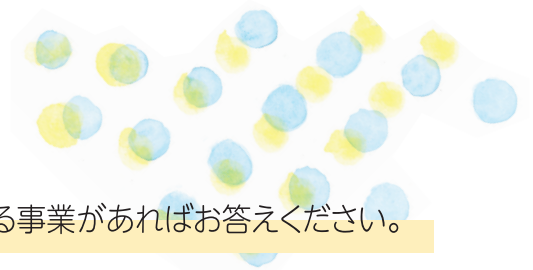
Q2-4 地域関係機関(支援センターや学校など)と取り組んでいる事業はありますか？

ある	117
ない	151

- ・ コミュニティまつり、盆踊り
- ・ 小学校情報交換
- ・ 連絡会議
- ・ 保健師の訪問、発育相談会
- ・ 職場体験の受け入れ



どの児童館も地域関係機関と連携をとり行っている。継続的な児童館運営には関係機関との協力体制の構築が不可欠となる。



Q2-5 地域ボランティア等によって協力いただいている事業があればお答えください。

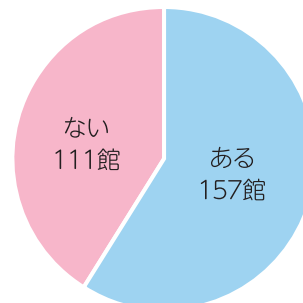
- ・ 絵本、紙芝居の読み聞かせ
- ・ 三世代交流会(苗植え、芋ほり、焼き芋、スポーツ大会)
- ・ 児童館まつりや各種行事の手伝い
- ・ 大学生ボランティアによる体育教室

これらの活動は地域コミュニティを活性化し、人々の繋がりを持つきっかけとなるため、非常に重要となっている。また、地域ボランティアは事業内容の充実や専門性、多世代交流の創出に大きく寄与している存在であるといえる。

Q2-6 居場所づくりに子どもたちが関わる仕組みはありますか？ (行事計画やルール作り、こども会議など)

ある	157
ない	111

- ・ こども会議の開催
- ・ こどもスタッフによる行事企画運営
- ・ こども中心にルール作り
- ・ 欲しい玩具など、こどもたちからのニーズに応える

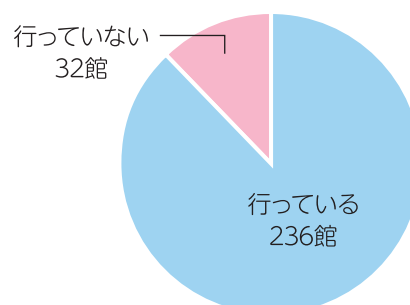


こどもたちが主体的に参加できる環境を作っている児童館が多く、社会参加の実践的な学びの場を経験出来ている。また、これらの取り組みを通じて、こどもたちは自己効力感を得ると共に、地域社会の一員として役割を果たす喜びを感じることができる。

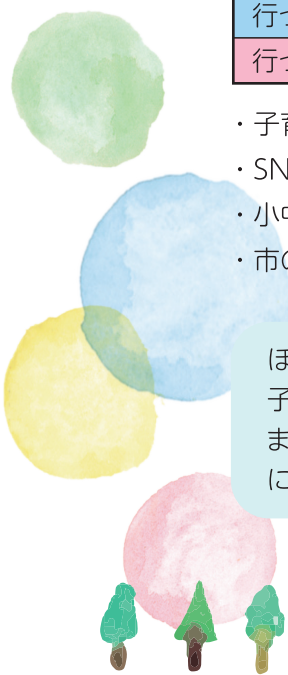
Q2-7 居場所として児童館を周知する取り組みは行っていますか？(広報、SNSなど)

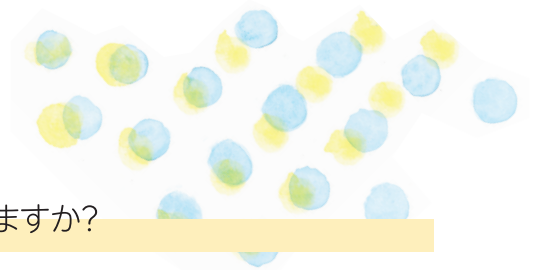
行っている	236
行っていない	32

- ・ 子育てアプリ
- ・ SNS、インスタグラム、LINE、ブログ
- ・ 小中学校へのチラシの配布
- ・ 市の広報、ホームページ、児童館だより



ほとんどの児童館で何かしらの方法で情報発信を行っている。親世代にはSNSなど電子での情報発信が出来るが、スマホを持たないこどもには紙ベースでのお便り配布がまだまだ必要である。紙でのお便りが削減されている昨今でこどもたちに情報が伝わるにはどうしたらよいか工夫が必要である。

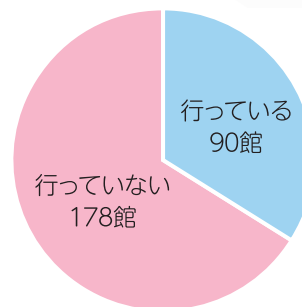




Q2-8 児童館で不登校児童の受け入れを行っていますか？

行っている	90
行っていない	178

- ・ 18歳までなら誰でも受け入れている。
- ・ 保護者や学校から相談があれば「居場所」としての受け入れはしている。
- ・ 特に取り組みは行っていないが、関係機関との連携を図っている。

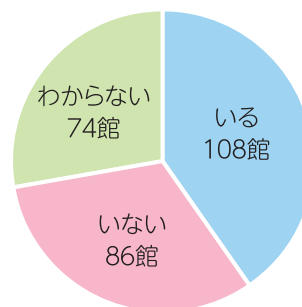


制度化はしていないものの学校や保護者、その他関係機関との連携を行いながら「居場所」として受け入れを行っている児童館がほとんどである。

Q2-9 児童館に来館する児童で家庭や学校などに居場所がないと感じている児童や、そのような話をする児童はいますか？

いる	108
いない	86
わからない	74

- ・ 遊びや日常会話の中でこどもから話した思いを受け止めている。職員同士で情報共有をする。
- ・ 場合によっては学校や行政と連携をする。
- ・ その児童にとって児童館で過ごす時間が楽しく穏やかな時間になるように配慮している。
- ・ 来館児童同士が繋がりが持てるように一緒に遊べる遊びを考え提供している。



Q2-10 近隣の学校との連携はどのように行っていますか？

- ・ 運営委員会の開催、所管課を通じて情報共有を行っている。
- ・ 掲示物の依頼、児童館だよりの配布、子育てアプリの配信を行っている。
- ・ 学校との懇談会、学校授業の一環として児童の来館を受け入れている。
- ・ 学校の見学会への参加をしている
- ・ ソーシャルワーカーを通して児童館や学校での様子などの情報共有を行っている。
- ・ 学校へ直接訪ねて先生と話をしたり、先生が地域パトロールで来館をされた際に情報の共有を行っている。
- ・ ボランティア、実習生、職場体験などの受け入れを行っている。

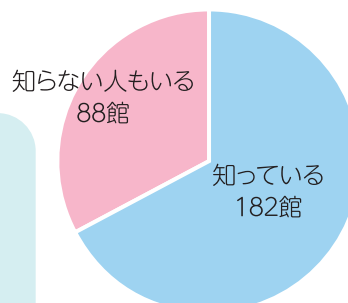


3. 意識調査

Q3-1 こどもの権利(児童の権利に関する条約)について職員は知っていますか？

知っている	182
知らない人もいる	88

全体の約1/3の児童館ではこどもの権利について知らない職員がいる結果となった。資質向上のための研修の継続的な開催と、受講しやすい環境作りが必要である。また、児童館職員同士で意見交換をする機会を作ることも必要である。

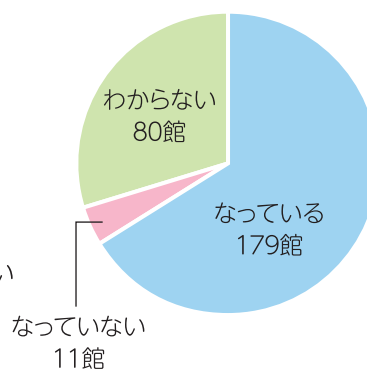


Q3-2 児童館がこどもの権利が守られる場所になっていると思いますか？

なっている	179
なっていない	11
わからない	80

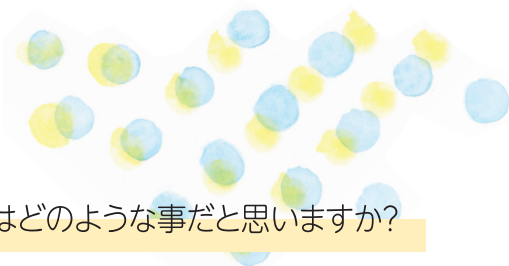
〔「なっていない」と回答された理由〕

- ・職員が「指導する」という習慣が残っている。
- ・こどもの意見を取り入れる取り組みが出来ていない。
- ・職員の知識や認識不足



こどもの権利を守る側面と運営上のルール作りの面で課題を感じ、児童館でこどもの意見を反映できていないという意見が多かった。





Q3-3 地域にとっての児童館が求められている役割とはどのような事だと思いますか？

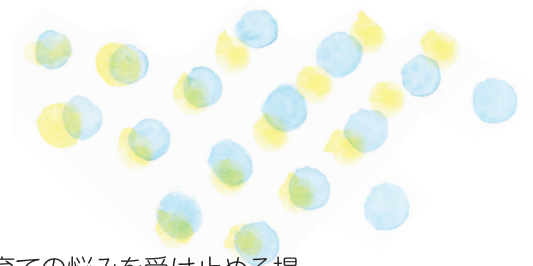
- ・安全な遊び場の提供、こどもの学びや成長、地域との繋がりを支援する施設である。
- ・「今日どこに行こう?」と思ったときに、思い浮かぶ選択肢の1つになる。
- ・子育て世代、子ども会などの相談ができる場、高齢者とこどもたちとのふれあいの場をもつことも児童館ならではの役割と思う。また、地域の困りごとや課題をこどもたちを通して解決へつなげていくのも役割と考える。
- ・いざとなれば助けてくれたり相談したりできる職員がいる。利用者(こども、保護者など)にとって安心安全な場所である。地域の状況や需要など、地域に根ざした身近な場所である。

こどもたちにとって安心感や居心地の良さという心理的な支えとなる側面、安全かつ楽しく遊べる施設としての側面の役割を果たし、こどもたちの居場所となるという意見が最も多かった。続いて、学校や家庭を中心とした地域とのパイプ役となる役割や、世代間の交流の場となること、子育てをする大人にとっても交流や情報交換の場所となり、地域における子育てを支える役割という回答が多かった。

Q3-4 乳幼児親子の居場所として求められていることはどのような事だと思いますか？

- ・気軽に遊びに行けて安心して過ごせる。
- ・子育ての話を聞いてもらえる。
- ・他の親子とも交流ができる。
- ・子育てについてサポートをしてくれ、活動に参加したり、話をきいてもらったりしながらリフレッシュができる。
- ・子育てに関する情報発信の拠点である。他の子育て家庭とのふれあいの場である。悩み相談解決の場である。保護者が自分のためにも時間を使う事ができ、いきいきできる場所である。
- ・子育てに関する相談、情報交換が気軽にできる子育ての不安感を取り除くことができ、安心して過ごせる場所である。
- ・子育て中の保護者の仲間づくりやこどもとのかかわり方を教えてくれる場所。子育ての悩みや困った事を話せる場所。こどもが楽しめるおもちゃがあったり、手遊びや工作を教えてくれる場所。





- ・同じ月齢同士、親同士のコミュニケーションの場である。
- ・乳幼児が安全で安心して過ごせる場所、保護者の方の子育ての悩みを受け止める場所、乳幼児親子同士が関われる場所である。

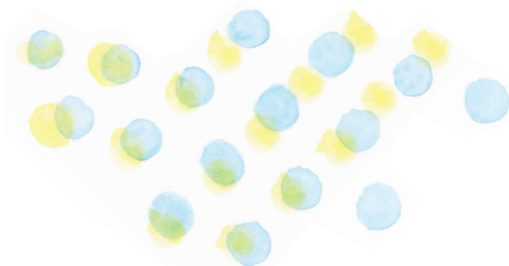
子育て世代の保護者にとっての居場所となる事が重要であるという意見が多かった。そのためには様々な相談に対応が出来、多くの情報提供が出来る事や発達段階に応じた遊びや体験の提供が出来る事、乳幼児向けの機能の確保など、職員の資質向上や機能強化が不可欠である。

Q3-5 小学生の居場所として求められていることはどのような事だと思いますか？

- ・こどもたちが安心・安全で過ごせる環境である。
- ・スポーツ、音楽、工作など多様な活動を通じてこどもたちの興味や関心を広げるプログラムを実施する。
- ・他のこどもたちと協力したりコミュニケーションを取ったりする機会を増やし、社会性、協調性及び自主性を育む環境を提供する。
- ・いつ来ても一緒に遊べる仲間や何でも相談できるような信頼できる大人（職員を含む）がいる。
- ・身体的、精神的、社会的に健全な成長を促すための事業を提供する。
- ・自分の意見を自由に言うことができ、受け止めてもらえる。
- ・自分の得意なことを伸ばせる。
- ・放課後や休日に安心して友だちと遊べる場所である。
- ・1人でも気軽に遊びに来られる場所である。
- ・ありのままの自分を受け入れてくれる、認めてくれる、自分を大事に思ってくれる。
- ・安心して自由に過ごせる場所。運動や工作などを通じて多様な経験が出来る。
- ・家庭や学校以外の第3の居場所である。

施設を利用する中心的な年代であるため、期待される役割と実際の施設運営に大きなずれは少ない様に感じる。こどもの権利を意識した児童厚生員の関わり方やこどもを主体とした企画の実施、ルールの見直しなどを進めながら小学生の居場所としての役割を担っている。引き続き保護者からは安心・安全な環境だと信頼してもらえるために、こどもからは楽しく自分らしく過ごせる環境だと思ってもらえるための取り組みを継続していくことが重要である。





4. 中高生世代利用について

Q4-1 中高生世代の来館促進のために取り組んでいることはありますか？
(ルール of 拡張、行事、広報活動など)

- ・ 職場体験の受け入れや、勉強できる場の確保
- ・ 卓球台の無料貸し出し
- ・ 入館しやすい雰囲気づくりや、スマホなどの電子機器の使用可能化
- ・ 中高生世代へのボランティアの依頼
- ・ 開館時間の延長や中高生タイムの実施
- ・ 児童館だよりの配布やホームページ、Instagramを使用した情報発信

多くの児童館が中高生世代にまず足を運んでくれるようになるための取り組みを考えている。意見の中には検討中というものも見られ、試行錯誤しながら来館促進に取り組んでいる事がわかる。また、実施はしているが来館者数の増加に繋がっていないという児童館もあり、児童館側が考えるものと中高生世代のニーズに相違がある事も考えられる。また、回答の4割が「特にない」とあり、中高生世代の来館促進対策が出来ていない部分もある。対策に悩んでいるが、「やりたくてもできない」「優先順位が高くない」という声もあり、現場の苦悩が見られる。

Q4-2 中高生世代の居場所として求められている事はどのような事だと思いますか？

- ・ 安心、安全でリラックスできる環境である。
- ・ 音楽、アート、スポーツなど自分を表現するための様々な機会や場所が提供される。
- ・ 静かで落ち着いて学習できるスペースが完備されている。
- ・ 同年代の仲間や信頼できる大人と自由に交流できる場である。
- ・ 身体的、精神的、社会的に健全な成長を促すための事業を提供する。
- ・ Wi-Fiが使える。
- ・ お金も使わず、天候にも左右されずに使える場。友だちとの交流もでき、遊び、音楽、情報など共有した時間を持てる。
- ・ 開館時間の延長・児童館ルールの変更(スマホの使用・飲食可能など)をする。
- ・ 気軽に立ち寄れる落ち着いた場所である。友だちとゆっくり過ごせる場所である。
- ・ 中高生世代が興味を持つアクティビティの拡充をする。

意見の中では「静かな場所⇔ダンスや歌の練習が出来る場所」「話し相手⇔干渉されない」など相反する部分も多く、児童館の設備や部屋の問題などで難しくなっていることが想像できる。

Q4-3 中高生世代の来館者が増える事での課題点がありますか？

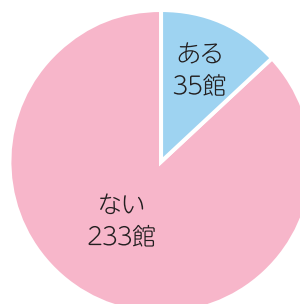
- ・ Wi-Fi環境など
- ・ スマホや PC などの使用について
- ・ 小学生の遊びが制限される
- ・ 職員の体制と対応力
- ・ 職員の知識や技術の向上
- ・ 小学生や乳幼児親子との住み分け
- ・ 開館時間が中高生世代のニーズと合っていない
- ・ 部屋の広さが足りなく、事故の発生が危惧される



ハード面では施設の広さや開館時間の問題などがあがり、ソフト面では職員の対応能力や技量が課題として上がっている。特に体が大きくなってくることから起こる怪我や、思春期の性的な問題などに対する懸念など、中高生世代の時期を専門で学んだ職員が少ないことから対応への不安があった。

Q4-4 中高生世代についての研修を受けたことがありますか？

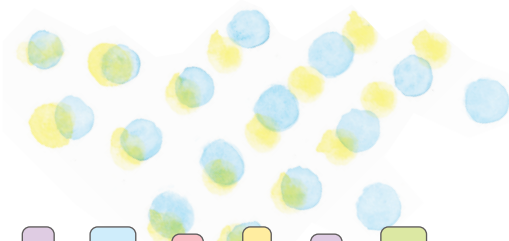
ある	35
ない	233



[受けたことがある研修について]

- ・ 居場所作りについて、理想の児童館について
- ・ 性について、性暴力被害について
- ・ 思春期のこどもの感性、心理について
- ・ 中高生世代と乳幼児親子の交流を望む事業について
- ・ 中高生世代のくつろげるスペースの必要性について
- ・ 発達、特徴、現状について
- ・ 参画の取り組みについて
- ・ スマホの使用に関する研修
- ・ 高校生の18時以降の活動場所について
- ・ 児童館と中高生世代との関わり方について
- ・ 事例発表、検討会





おわりに

令和5年12月、こども家庭庁より「こどもの居場所づくりに関する指針」が策定され、すべてのこども・若者が安全で安心して過ごせる居場所を持ち、主体性や創造力を発揮しながら成長していくことの重要性が改めて示されました。

本調査は、この指針を踏まえ、県内児童館の取り組みや実態を知り、共有することで、あらためて「居場所としての児童館の在り方」を見つめ直すことを目的として実施しました。

調査を通して、児童館が日々の遊びや関わりの中で、こども一人ひとりの思いや声を受け止め、安心できる居場所として大切な役割を果たしていること、そして職員の皆さんの工夫と熱意に支えられていることが浮かび上がってきました。同時に、社会の変化やこどもを取り巻く課題が多様化する中で、児童館に求められる役割もまた広がり続けていると感じさせる結果となりました。

本報告書が、県内の児童館で実践に取り組む“あなた”にとって、自館の取り組みを振り返り、こどもとともに「どんな居場所でありたいのか」を考える一助となれば幸いです。そして、こどもたちが「ここにいたい」「また来たい」「やってみたい」と感じられるような、「こどもまんなか」の居場所づくりを進めていくための小さなヒントとなることを願っています。

児童館が、これからもこども一人ひとりに寄り添い、笑顔と学びがあふれる地域の居場所であり続けますように。

活動研究委員会一同

活動研究委員会メンバー

加藤 憲三	(津島市／津島市中央童館)	令和6・7年度
酒井華奈子	(東浦町／緒川児童館)	令和6・7年度
加藤 雄一	(長久手市／子ども未来課)	令和6・7年度
酒井 糸保	(瀬戸市／交通児童遊園)	令和6年度
服部加奈子	(豊山町／しいの木児童センター)	令和6年度
杉山 昌子	(高浜市／翼児童センター)	令和6年度
中根 亜湖	(高浜市／翼児童センター)	令和7年度
岩川 翔	(みよし市／こども政策課)	令和7年度
畑佐 俊行	(清須市／西枇杷島児童センター)	令和7年度



令和6・7年度 児童館活動研究報告書
『がんばれ 愛知の児童館』
(令和8年 3月発行)

編集・発行 愛知県児童館連絡協議会
印刷・デザイン 有限会社東海写真企画

